

令和6年度 第3回足柄広域新モビリティサービス推進協議会 議事録

日 時 令和7年3月25日(火) 10:00～

場 所 松田町役場 1階1AB会議室

出席者：梶田副会長、市野委員、宿谷委員、森下委員、中津川委員、浅野委員、柳澤委員、畑野委員、佐野委員、山崎委員、鴨下委員、田中委員、湯川委員、岩本委員(代理：大井委員)

欠席者：杉本会長、宿谷委員、森下委員、尾登委員、尾登委員、陶山委員

事務局：政策推進課

鈴木英幸、鍵和田龍太、鎌田拓哉、鍵和田幸義、

市川和男(まちづくりコーディネーター)

一般社団法人ASHIGARA ON DEMAND 蛭海 友貴

オブザーバー：地域公共交通会議会長 古舘信生、小田原箱根交通株式会社 瀬戸 泰一、
松田町福祉課長 宮根 正行、松田町観光経済課長 遠藤 洋一

【会議次第】

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 今年度の取組概要について

(2) 「のるーと足柄」運行分析結果及び今後の取り組みについて

(3) その他

4 閉会

【会議概要】

1 開会

・事務局より開会のあいさつ

2 会長あいさつ

・副会長による挨拶

3 議事

(1) 今年度の取組概要について

●事務局

・資料1を基に説明

・以下、質疑応答

○委員

・6年度の収支見込み書マイナスの4100万という部分それと昨年度も3000万ぐらいの赤字

が確かあったのではなかろうかと思うんですけど、このお金ってどうされるのかなっていうところがはい

●事務局

・それはすごく認識をしております、今後、いかにこれを減らしていくかということを目指す第1に進めていて、それを解析しながら、それですぐにはというのはなかなかということなので、長期的な本格運行に向けて、長期的なものも含めて、徐々にしていきたいと。

新しい何ですか観光とかいろいろなものを入れながら、少しなんていうんすか、申請をしながらですね、この補助金とかでしていくというのがありますのでそういった提案もですね、早めにどんどんしていきながら何とかこういった会先行の部分っていうのは非常にわかって、この収支率について上がってきてるということで、いい傾向じゃないかなと思うんですけど、過去をどうするのかなっていうのが一番素朴な疑問で、これを例えば行政の方が負担するだとか、その後の継続性のことで、結局今の2年間のマイナスの7000万をどう改善していくのかっていうのはこの先だと思うんですけども町井の住民も結構使わせていただいておりますので、いろんな部分のところ継続していただきたいというのが、個人的にも町としてもうちの公共交通会議でも先般開成町さんが入られたことによって改正多いというルートも使えないかということで協議させていただいて、特に反対意見もなく、利便性の向上に繋がるからということでは、賛同を得てますんで、このまま良い方向に行っていただきたいという気持ちは当然持つてんですけど、ただ、現在のこの処理がどうなるのかなっていうのが同じ行政として、非常に気になるというかどういうふうな扱いをしていくのかなっていうところが、はいそうですね。

その辺りは検討しながらですね、いろいろ支援も含めてですね、協議してますので、その辺りでなってますね。

よろしく願い特に一応方向性としては、今臨床副会長は理事長でいた家いらっしゃってるんで、うちの町長含めてですね、いろんな協議を何度も重ねていただいているということでその中でももう少し効率化を図れないかなっていう部分も出てきているので、例えば来年度先ほど比留間がお伝えしたのは、山北町への拡充もそうなんですけど、それだけじゃなくてもっと効率化を図るために今まで行ってたところをもう少し数を狭めてやるっていうことも来年度の見直しの中では検討していきたいなというふうに町の方としては考えているところで、これからまたすり合わせをしていきたいなと思うんですけど、あとはこの前ODの方の会議の方も私自身参加させていただいたんですけどそれ今のおっしゃっていただいたことを含めてですね、何かこれからいろいろな検討をもう少しスモール中サイズの全員が集まるんじゃなくて専門家専門家というか、少しコアなメンバーで集まって話し合いも重ねていただけるというようなことも受けてますのでその辺りも踏まえながら、今後の町の対応も考えていきたいなと考えております。

以上です。

4 会長挨拶

- ・会長による挨拶

5 報告事項

6 議事

(1) これまでの経緯について

- ・資料1を基に説明
- ・以下、質疑応答

○委員

- ・資料にデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、エリアを拡充とあるが拡充部分はいつから、どこからどこまでの部分にあたるのか

●事務局

- ・エリアとしては開成町に運行エリアを拡充する。また、10月から開始を目途に各種競技を進めていく。

○委員

- ・今後の確認として本協議会の松田町地域公共交通会議としての位置づけは。

●事務局

- ・地域公共交通会議の分科会という位置づけとなっている。町にとって適している新しい公共交通を検討するため、専門的な意見交換会がされるよう設立されたもの。

(2) AI オンデマンド交通実証の運行体制の見直しについて

○委員

- ・本協議会での協議されたことが地域公共交通会議の議決を得たことにはならないという認識でよいか

●事務局

- ・そのとおり

○委員

- ・また、利用者アンケートの回答数は何件か。

●事務局

- ・利用者アンケートについては1,100配布、561世帯からの回答があり、回収率は51%

(2) AI オンデマンド交通実証の運行体制の見直しについて

- ・資料2を基に説明
- ・以下、質疑応答

○委員

- ・収支が調っていないものを予算書として出すのは良くないのではないか。

●事務局

- ・数字が決まり切っていない数字を盛り込んでいるところもあるためこのような形になっている。AODの総会がこれからあり、それを踏まえて町と協議を進め、最終的な予算として公共交通会議で示す。

○委員

- ・利用者の増加について、令和5年度から6年度が4倍になっており登録者数は1.6倍にしかっていないが、利用者が増加する見込みがあるのか。運賃の増加、運行計画も狭めていることから大きく増加する要素がないのではないか。

●事務局

- ・利用者数の増加については、AIオンデマンド交通を導入した事例の中から松田町と似たような地域性・人口数の実績を基に算出した数字になっている。

加えて、令和5年は半年間の運行となるため、利用者が少なく見えてしまっていることから数字が飛躍的に伸びている様に見えてしまっている。

また、パスポートの購入を促すため、付加価値を付けることを検討している。

○委員

- ・今回の見直し方針については運賃の部分があるが、今回欠席されている富士急モビリティを含め、競合している地域公共交通事業者と調整はしているのか。また、どういう意見を述べて居るのか。

●事務局

- ・実証実験につき、実証してみないとわからないため、当初運賃は300円として設定し運用してきた。新松田から寄るバス運賃が600円ほど掛かるため、料金の乖離が生まれていることについて、富士急モビリティから指摘があったため価格の見直しが必要だと考えている。

○委員

- ・当初想定登録者数2,700人と現登録者数1,076人の差異について分析はしているのか。また、料金増加によりさらに利用者が減ると考えられるが、対策はあるのか。

●事務局

- ・当初想定の利用者数については、公共交通に関するアンケートにて集計した数値を基に算出しており、アンケートにおいて、利用したいタイミングまで集計しておらず、将来的に使いたいなどの潜在的なニーズが含まれるため、現登録者の数値との差異が生じていると考えられる。

登録者増加の方法としては、主に利用されているMPのショッピングモールや商業施設にて利用促進のためのキャンペーンや、利用に関する心理的なハードルを下げるための利用者説明会や体験会など、簡単に使える事をアピールしていき、登録者の増加を図っていく。

○委員

- ・利用者の増加について、松田町と似たような地域性・人口数の実績を基にと話があったが、

基にした自治体はどこか。

●事務局

・参考とした自治体が2つあるが、詳細資料については手元にないため、次回情報共有する。

○委員

・令和5年度の収支の差額3,000万円弱については、どのように補填していくのか。

●事務局

・現在法人として経営者含めてしっかりとした議論ができていないため、次回に示すよう議論を進める。

○委員

・車両の削減や運行時間の削減を行う中でエリア拡充することで利用者の待ち時間の増加などの問題が考えられるが、現在の待ち時間などそのあたりはどうか。

●事務局

・現在、1台が車両点検などで使用不可となり3台運行している日があるが、待ち時間の増加見られていないため、問題ないと考える。

○委員

・デジタル田園都市国家構想交付金を受けているとのことだが、予算書ではどこで当たるのか、いつまで支給されるのか。

●事務局

・予算書の町委託料の中に含まれており、支給期間は3年間。

○委員

・収入のもともとの見込みが6,400万だが、実績は1,100万であり、支出の部分について、計画より倍になっている理由は。

●事務局

・計画は令和3年に立てたもので、ドライバーの賃金や拘束時間について変化しているものに合わせると金額が増加している。

また、運行開始が10月ということで時間的に限られた中での準備の中で運行委託をする中で運行会社が納得する金額での運行開始や、車両についても期間内に納入できる会社を選定するなどにより、金額が増加している。経費の節減の努力がしきれなかったところがある。

令和6年度の予算を作っていく中で見直しを図るよう交渉しているところ。

○委員

・利用者が乗り合いしないと、事業の意味がない。常に利用者が1人乗車して、を繰り返すだけだとタクシーと変わらず、タクシーならば必要としている人に助成券などを配った方が安上がりになる。乗り合い率を高めることは自然体であると難しい。収支を考えたなかで乗り合い率を上げることも必要ではないか。

また、アンケートにてあったら使いたいという回答をした中に、今後免許返納した場合に

使用したいというニーズも含まれているはずであるため、パスポートについては高齢者に免許返納を促し、こちらに移行してもらうような、突っ込んだ政策が必要なのではないか。

●事務局

- ・乗り合い率については、モニターをしている。客が乗っている時間を分母とし、2組以上が乗っている時間を分子として出したもので、現在は31%、運行開始当初は20%ほどであるため、徐々に上昇している。

○委員

- ・令和5年度の収支について3000万円のマイナスの中役員報酬が460万と顧問料が570万円で約1000万円かかっているが削減できないのか。

●事務局

- ・役員報酬についてはほぼ削減を検討している。

○会長

- ・半年間の運行の結果で運行計画の変更を検討しているが、これから夏になり人が活発に活動する時期の実施結果がないため、人が動いていない時期（10月～3月）のデータを基に計画を変更するのは信頼のできる数字を基に計画の変更をお願いしたい。

町民への周知が不足しており、町民へ共に育てていく交通手段という意識共有と周知をしっかりと行っていただきたい。

また、登録者の低さや登録そのもののハードルについて、事務局に行けば教えてくれるが、現在の事務所の場所はアクセスしづらいため、町民が行き交うところへ移動し、見える化した方がよいのでは。

抜本的な改革を検討していただきたい。

●事務局

- ・検討していく。

○委員

- ・以前は松田町にもスーパーがありそこを利用していた。自分で車を運転できる間は、大井町や開成町に車で行ってしまう。これから五年後と時を重ねると高齢化率が高くなるので、買物難民が増えると考えられる。そうなるとうAIデマンドバスの利用も上がるのではないか。

(3)その他

以下、質疑応答

○委員

- ・次回の協議会で区域の拡大についての協議が行われると思うが、路線バスへの影響やタクシーへの影響について、データを示していただきたい。

また、開成町の箱根登山バスへの影響も併せて示して欲しい。

乗り合い率について今後は一日の運んだ人数を運行回数で割って一回当たり平均何人を出して欲しい。

参考とした他地域事例の具体的な利用者数の変遷とどういった取り組みをしているのかを情報共有して欲しい。

●事務局

- ・次回示せるようにする。

7 閉会

以 上